

## 取組別評価シート(平成26年度実績)

政策4	未来を拓く人づくり
取組1	子育て環境の充実
取組の目的	健やかな子供を育てるため、地域が一体となって子育てする環境を整備します。

### 取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	◎待機児童解消のための取組を一層加速させるべく、平成25年4月に平成25、26年度の2年間で20万人、全国的な保育ニーズのピークを迎える平成29年度末までに、潜在的な保育ニーズも含め、40万人分の保育の受け皿を確保する「待機児童解消加速化プラン」が発表された。また、これを制度面から支える「子ども・子育て関連3法」が平成24年8月に成立し、「子ども・子育て支援新制度」が平成27年度4月にスタートした。
主な取組	◎年々高まる保育需要に対応するため、認可保育所の新設や既存施設の定員拡大に努めてきたが、待機児童の解消には至っていない。また、子ども・子育て関連3法による児童福祉法の改正により、放課後児童クラブの受入対象年齢が小学6年生までに拡大されており、平成31年度までに受入体制を整える必要があり、保育全般に関する施設整備やサービスのさらなる充実を図っていく。

### 取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	保育所待機児童数【人】	目標値	34	10	0	0	0	1
		実績値	34	18	5	16		
2	地域子育て支援センターの年間利用者数【人】	目標値	106,000	106,000	118,000	124,000	130,000	1
		実績値	97,364	97,091	98,952	95,063		
3	ふくろいファミリー・サポート・センター協力会員数【人】	目標値	375	375	403	417	430	2
		実績値	364	371	375	377		
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4:目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3:目標は達成しているが、前年より落ちている 2:目標は達成していないが、前年より伸びている 1:目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	1.3

### 『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<b>有効性</b> 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎待機児童を解消するため、愛野こども園や、袋井あそび保育園、たんぽぽ第2保育園の新設など、定員の拡大に努めてきた。しかし、平成26年度には保育所への申込者が、前年度より33人増加(1260人→1293人)したことにより、待機児童は16人となった。 ◎近年、子どもの出生数が横ばい傾向である一方、保育所の定員増、幼稚園での預かり保育の拡充等により、地域子育て支援センターの利用者数が減少傾向にある。
<b>必要性</b> 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎平成27年4月の子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、保育所への入所要件が「保育に欠ける」から「保育を必要とする」に変更されたことにより、利用対象者が拡大され、平成27年度の保育所申込者数は前年度より129人増加し、待機児童も平成26年度16人から30人に増加した。そのため早急に保育の充実に努める必要がある。 ◎特徴として、主に0~2歳児の保育環境の整備について必要性が高い。
<b>緊急性</b> 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎待機児童の解消を目指し、保育施設の整備、定員の拡大、認可保育園への移行など、定員の拡大に努めてきた。しかし、保育所需要は年々高まっており、平成25年度には5人だった待機児童は、平成26年度は16人、平成27年度には30人と、年々増えており、緊急性は極めて高まっている。 ◎平成26年度に策定した「袋井市子ども・子育て支援事業計画」に従い、計画的に保育・地域の子育て支援環境の充実に努めていく。
評価結果の平均値	3.7	

## この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
4. 極めて有効	4. 極めて効率的	4. 極めて影響あり		
3. 有効	3. 効率的	3. 影響あり		
2. 一部有効でない	2. 一部効率的でない	2. どちらでもない		
1. 有効でない	1. 効率的でない	1. なし又はえ代替手法あり		
1 放課後児童クラブ施設管理事業	3	2	4	
2 施設型子育て支援センター運営事業	4	4	4	
3 巡回型子育て支援センター運営事業	4	4	4	
4 地域子育て支援システム運営事業	4	4	4	
5 ファミリーサポートセンター運営事業	4	3	4	
6 母親クラブ育成事業	3	4	4	
7 親スキルアップ講座開催事業	4	4	4	
8 放課後児童クラブ運営事業	4	3	4	
9 中央子育て支援センター運営事業	4	2	4	
10 親子交流広場運営事業	3	2	4	
11 中央子育て支援センター時預かり事業	4	4	4	
12 民間保育所運営費補助事業	4	3	4	
13 民間保育所建設費補助事業	4	3	4	
14 認証保育所・認可外保育施設補助事業	4	4	4	
15 保育ママ	3	3	3	
16 妊婦支援事業	3	3	3	
17 不妊治療費助成事業	4	3	3	
18 公立幼稚園管理運営事業	3	3	4	
19 幼稚園預かり保育事業	3	3	4	
20 公立幼稚園教育振興事業	3	3	4	
21 私立幼稚園運営助成事業	3	3	4	
22 徳育推進事業	4	4	4	
23 放課後子ども教室推進事業	4	3	4	
24 乳幼児健診事業	4	4	4	
評価結果の平均値		3.6	3.6	3.3
				3.9

## 取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
1.3	3.7	3.6	2.9

4 ~ 3.6 : 順調 3.5 ~ 3 : 概ね順調 2.9 ~ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ~ 1 : 全体的に改善を要する

②保育サービスについては、平成27年4月の子ども・子育て支援新制度の施行により利用対象者が拡大されたことを受け、充実が求められている。 ③子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、放課後児童クラブの受入対象を段階的に小学校6年生まで拡大する必要があるため、余裕教室や公共施設の活用や民間委託などにより、受入人数の拡大を図っていく。			H26 の 評 価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H26		
1	多様な保育サービスの充実	↗	子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、申込者数も増加傾向にあり、特に0~2歳児の需要が高い。ニーズに合わせた保育施設や子育て環境のさらなる充実を図り、待機児童の解消を目指していく。	
2	地域ぐるみの子育て支援の推進	→	子どもが安全で安心に過ごせる放課後等の居場所づくりを進めるため、放課後児童クラブの受入対象の拡大や、子育て支援センター等の充実、子育て情報を提供することにより、子どもを育む力のある地域社会を目指していく。	
3	早期療育の実施	↑	乳幼児期から青少年期にいたる子どもやその保護者を総合的に支援できる体制を確保するため、旧袋井保健センターに関係施設を集約した「育ちの森」を整備し、適切で切れ目のない相談・支援を行うことができる体制を整備していく。	
4	德育の推進	→	市民との德育推進協働事業を今後も継続して実施し、市民の視点で德育を広めていく。また、市民が求める、市民に求められる事業内容とするために、市民団体との協働を中心とした事業展開としていく。	
5	子育て世帯の不安の解消	↗	子育て世帯の不安を解消するため、地域全体で子育てを支援するとともに、放課後児童クラブの受入対象の拡大や、子育てサークル等の支援、子育て情報の提供を行うことで、子育てしやすい環境づくりに努めていく。	
6	子どもの安全の確保	→	袋井警察署やスクールガードボランティア・スクールガードリーダーとの連携など、子どもが被害者となる犯罪や事故、虐待(子育て放棄も含む)を未然に防ぐ体制づくりを進めていく。	

« 展開方向 » 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

## 取組別評価シート(平成26年度実績)

政策4	未来を拓く人づくり
取組2	心ゆたかな若者の育成
取組の目的	知性にあふれ、ゆたかな感性と未来を拓く活力に満ちた若者を育みます。

### 取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	◎少子化や核家族化の進行、都市化や情報化の進展、急速なグローバル社会の進展、経済格差拡大の懸念等、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化している。また、急激な景気悪化の影響を受け、若者が将来への夢や希望を持ちにくい時代となったと言われている。
主な取組	◎「ゆたかな人づくり」を教育理念に掲げ、「ゆたかな心」「確かな学力」「健康でたくましい身体」のバランスのとれた若者の育成に取り組んでいる。 ◎袋井市学力向上アドバイザーとして、文部科学省や静岡大学等から講師を招聘し、学力向上に向けた研修会を開催した。また、授業改善推進校として、袋井北小学校と高南小学校にそれぞれ大学教授を講師に招き、研究授業を公開した。

### 取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	基礎学力(自ら考える力を含む)が身についている児童・生徒の割合(小5・中2)【%】	目標値	小5 90.8 中2 71.0	小5 91.1 中2 72.0	小5 91.4 中2 73.0	小5 91.7 中2 74.0	小5 92.0 中2 75.0	小5 <b>2</b>
		実績値	小5 84.0 中2 73.0	小5 88.0 中2 69.8	小5 79.2 中2 71.8	小5 85.0 中2 78.0		中2 <b>4</b>
2	基礎体力が身についている児童・生徒の割合(小6・中3)【%】 ※H25以降は(小5・中2)	目標値	85.0	86.0	88.0	89.0	90.0	<b>2</b>
		実績値	50.0	50.0	59.4	76.1		
3	地域活動やボランティア活動に参加している児童・生徒の割合(小6・中3)【%】	目標値	78.0	79.0	81.0	83.0	85.0	<b>1</b>
		実績値	75.7	75.3	75.7	74.8		
4	自ら進んで読書活動に取り組んでいる児童・生徒の割合(小6・中3)【%】	目標値	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	<b>1</b>
		実績値	23.5	27.6	25.4	23.5		
5		目標値						
		実績値						

【評価点基準】  
 4:目標を達成し、さらに前年よりも伸びている  
 3:目標は達成しているが、前年より落ちている  
 2:目標は達成していないが、前年より伸びている  
 1:目標に届かず、かつ前年より落ちている

評価結果の平均点 **2.0**

### 『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<b>有効性</b> 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	<b>3</b>	◎「基礎学力が身についている割合」は、学力向上アドバイザーを招き研修会を開催したことや授業改善などにより、成果が出ている。 ◎「基礎体力が身についている割合(全国平均を上回る種目の割合)」は、目標は達成していないものの、76.1%(中2 83.3%・小5 68.8%)と改善しており、授業や部活動で意図的に基礎体力の向上に向けて取組を重ねた成果であると考える。しかし、種目によっては、常に全国平均を下回るものがあるため、意図的・計画的に運動に取り組む機会をつくり、基礎体力の向上を図る。
<b>必要性</b> 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	<b>4</b>	◎子ども一人ひとりに寄り添った授業の展開を進め、児童生徒の実感にあった「確かな学力」の定着を図っていく。 ◎平成23年度から完全実施されている新学習指導要領に伴う新しい学力観に立ち、付けたい力が確実に身につくよう、「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を明確にした授業の実践を進め。また、学力向上に重点をおいた研修を推進し、教員の資質能力、指導力向上を図ることで、よりよい授業づくりを目指し、市内外中学校の児童生徒の学力向上を図る。
<b>緊急性</b> 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	<b>4</b>	◎今後、変化の激しい時代でも、自らの能力を十分に発揮し、活躍していくためには、かかわりあいの中で自己有用感の高い心ゆたかな人づくりとともに、より一層、「確かな学力」や「健康でたくましい身体」の育成を進める必要がある。また、社会全体で若者の育成に取り組むための環境を整備していく必要がある。
評価結果の平均値	<b>3.7</b>	

## この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事業事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又はえ代替手法あり		
1 (小学校・中学校)特別支援学級等支援員事業	4	4	4	
2 (児童・生徒)健康診断事業	3	3	4	
3 外国人児童生徒サポート事業	4	4	4	
4 学校図書館サポート事業	4	4	4	
5 要保護・準要保護(児童・生徒)就学援助事業	4	3	4	
6 (児童・生徒)特別支援教育就学奨励事業	4	3	4	
7 (小学校・中学校)特別支援教育推進事業	4	4	4	
8 (小学校・中学校)外国人生徒支援事業	4	4	4	
9 (小学校・中学校)読書活動推進事業	4	4	4	
10 (小学校・中学校)情報教育推進事業	4	4	4	
11 (小学校・中学校)元気な学校づくり推進事業補助金交付事業	4	4	4	
12 (小学校・中学校)備品整備事業	4	4	4	
13 学力向上対策事業	4	4	4	
14 (小学校・中学校)人権教育推進事業	4	4	4	
15 (小学校・中学校)ALT派遣事業	4	4	4	
16 教育施設大規模改修事業	4	4	4	
17 教育支援センター事業	4	4	4	
18 農を活かした授業づくり事業	4	4	4	
19				
20				
評価結果の平均値		3.9	3.9	3.8
				4.0

## 取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.0	3.7	3.9	3.2

4 ~ 3.6 : 順調 3.5 ~ 3 : 概ね順調 2.9 ~ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ~ 1 : 全体的に改善を要する

◎生きる力としての「確かな学力」の育成のために学力向上対策事業として袋井版学力・学習調査を導入し、PDCAサイクルを生かした授業改善システムを構築する。 ◎教育心理検査Q-Uを拡充し、データを基にした組織的な学級づくりを進めていく。			H26 の 評 価	概ね順調
番号	取組の基本方針	H26		
1	自ら考える力を育む教育の推進	↗	主体的に授業に臨む態度を培うため、袋井市学力向上推進委員会を設置し、家庭学習の習慣化や教育環境の整備、教師の負担軽減策などを推進していく。	
2	ゆたかな心を育む教育の推進	→	一校一徳運動などにより、日常的な德育活動を引き続き推進していく。また、自然や地域の人々とよりよくかかわろうとする教育活動を推進することにより、共生意識や自己有用感にあふれた子どもを育んでいく。	
3	たくましい身体を育む教育の推進	↗	運動意欲の向上や運動習慣の定着、食育を通して、正しい生活習慣の定着への取組を継続して行う。小学校については、これまで年1回秋のみ実施してきた新体力テストを春にも行っていく。	
4	安心して快適に学べる教育環境の充実	→	生徒の特性を理解し、支援方法等を工夫するための研修会を充実させ、特別支援学級でのノウハウを通常学級での指導にも活かしていく。	
5	社会全体が連携した若者育成の推進	→	創意ある教育活動を通して、保護者や地域社会との連携を深め活力に満ちた学校づくりを推進する。交流活動において、思いやりの心を育み、自分を見つめ、支えてくれた多くの人に感謝できる若者の育成に努めていく。	
6	農を活かした若者づくり	→	市内12小学校全てで農を活かした授業を実施しており、自然や地域の人々とよりよくかかわろうとする教育活動をさらに推進していくため、今後も継続していく。	

« 展開方向 » 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↓

## 取組別評価シート(平成26年度実績)

政策4	未来を拓く人づくり
取組3	芸術・文化・生涯学習の推進
取組の目的	市民の主体的な生涯学習活動を支援するとともに、多彩な生涯学習活動の機会を提供し、芸術・文化・学習活動を推進します。

### 取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	◎科学技術の高度化、情報化、少子高齢化など変化の激しい社会状況において、人々は物質的な豊かさに加え精神的な豊かさと充実感を求めており、生涯にわたって健康で生きがいのある人生を送ることを望んでいる。 ◎一部の自治体ではまちづくりの視点に芸術や文化、生涯学習の要素を取り入れ、積極的に取り組むところも出てきている。
主な取組	◎生涯学習活動が効果的にまちづくりに活かされる仕組みづくりを推進するため、公民館のコミュニティセンター化モデル事業や、各種団体等の社会教育事業の支援を実施している。 ◎芸術・文化を市民により身近なものとし、市民生活にうるおいと心のゆたかさを与えていくため、月見の里学遊館事業や彫刻のあるまちづくり事業を実施している。

### 取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	公民館・中央公民館・月見の里学遊館の利用者数【人】	目標値	506,500	507,500	508,000	508,000	510,000	1
		実績値	456,266	466,808	489,442	450,466		
2	生涯学習活動のリーダー数【人】	目標値	279	290	290	300	300	2
		実績値	279	269	269	269		
3	図書館における図書貸出冊数【冊】	目標値	530,000	550,000	600,000	650,000	712,200	1
		実績値	531,964	538,838	538,325	531,652		
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						

#### 【評価点基準】

- 4:目標を達成し、さらに前年よりも伸びている
- 3:目標は達成しているが、前年より落ちている
- 2:目標は達成していないが、前年より伸びている
- 1:目標に届かず、かつ前年より落ちている

評価結果の平均点

1.3

### 『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<b>有効性</b> 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎公民館・中央公民館・月見の里学遊館の利用者数は、各公民館や月見の里学遊館において工夫を凝らした講座やワークショップ等を実施するほか、公民館まつりなど地域住民が集う事業の継続的な実施により一部増加が見られた。しかしながら、選挙投票者数を利用者数から除くなど、利用者減の要因も有り、全体として利用者減となつた。
<b>必要性</b> 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎公民館や図書館などは、芸術・文化・生涯学習活動の推進において、市民が自ら学ぶ機会を提供する場であり、その整備や内容の充実は必要である。 ◎公民館では、高齢化等によりクラブ・サークルが減少傾向にあるため、講座修了者にクラブ化を積極的に呼びかけるなど、新たな利用者の発掘に努める必要がある。 ◎月見の里学遊館では、指定管理者:袋井市文化協会グループによる安定的な運営と中期的な計画により、うさぎホールや各種ワークショップ、公園を活用した事業等を実施し、市民ニーズに合った企画運営を行う必要がある。
<b>緊急性</b> 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎文化・芸術・生涯学習の推進に向けた取組は、すぐに効果が確認できるものは少なく、中長期的に取り組んでいく必要がある。 そのため、取組としての緊急性は高くないが、継続した取組が求められている。
評価結果の平均値	2.3	

## この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又はえ代替手法あり		
1 公民館運営事業	4	4	4	
2 特色ある公民館づくり補助事業	3	3	3	
3 文化芸術に関する大会等出場激励事業	3	3	3	
4 彫刻のあるまちづくり事業	3	3	3	
5 市民文化活動補助事業	3	3	3	
6 月見の里学遊館運営事業	3	2	4	
7 学生助成事業	3	3	3	
8 講座等開催助成事業	3	3	3	
9 澤野医院記念館公開事業	4	4	4	
10 久野城址保存会運営補助事業	4	4	3	
11 郷土資料館運営事業	3	3	4	
12 歴史文化館運営事業	3	3	3	
13 図書館運営事業(袋井図書館+浅羽図書館+月見の里分室)	4	4	4	
14 図書館蔵書充実事業(袋井図書館+浅羽図書館+月見の里分室)	4	4	4	
15 ブックスタート事業	4	4	4	
16				
17				
18				
19				
20				
評価結果の平均値	3.4	3.4	3.3	3.5

## 取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
1.3	2.3	3.4	2.4

4 ~ 3.6 : 順調 3.5 ~ 3 : 概ね順調 2.9 ~ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ~ 1 : 全体的に改善を要する

①高齢化等によりクラブ・サークルが減少傾向にあり、公民館の利用者が減ってきていたため、講座修了者にクラブ化を積極的に呼びかけるなど新たな利用者の発掘に努めていく。 ②生涯学習活動が効果的にまちづくりに活かされる仕組みづくりを推進するため、引き続き、公民館のコミュニティセンター化モデル事業や各種団体等の社会教育事業の支援を実施していく。			H 26 の 評 価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H26		
1	芸術・文化・学習機会の提供	→		身近なところで気軽に文化や学習などに親しむ機会を提供することが求められている。生涯を通じて積極的に学び、自らの能力を高められる機会を継続して提供していく。
2	市民の主体的な活動の推進	→		市民の文化意識の向上を図るとともに、文化振興や文化活動の活性化を実現するため、今後も行政による一定の支援を続けていく。
3	図書館機能の充実	↗		貸出冊数だけでなく、デジタル資料やデータの提供・活用、レファレンスサービスの一層の充実など、多くの方に来館・利用していただけるサービスの展開を進めるとともに、設備・機器の更新を図っていく。
4	読書の推進	→		市民との協働の促進や、関係各所との一層の連携を図ることで、あらゆる世代や対象に対する図書館利用の啓発、推進に取り組んでいく。
5	郷土の歴史・文化の伝承と偉人の顕彰	→		郷土への誇りを育むため、文化遺産の保存、継承に努めていく。また、各館が連携して展示を更新するなど、常に新しい内容を紹介できるよう展示や研修を充実させていく。

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘